看護小規模多機能「ぐるんとびー」（神奈川県藤沢市）

目配り広く、一瞬でいろんなことを考え・行動する

「ぐるんとびー」は神奈川県藤沢市の団地内にある看護小規模多機能施設です。

地域住民も巻き込もう、地域の人と常につながりを持とう――というスタンスでUR（都市再生機構）の団地に小規模多機能、すぐ近くの分譲マンションのテナントとして看護小規模多機能施設を開設しています。

代表の菅原健介さん自身も、同じ団地内で家族と共に暮らしています。施設には、団地の子どもがおやつを食べに来たり、高齢者がちょっとお茶を飲みにきたりします。また町内のイベントでは、利用者も近所の人も一緒に盛り上がって楽しむ雰囲気の、あったかくて楽しい施設です。

代表の菅原健介さん（右）

◇

新年早々、能登地方で大きな地震が起きました。代表の菅原さんは、東日本大震災の被災地支援で1年半にわたって大活躍をした経験者。今回の初動も素早く、現地支援に向かいました。

菅原さんは理学療法士ですが、母親の菅原由美さんは潜在看護師が災害支援などを行う医療ボランティア団体の「キャンナス」を全国に立ち上げている看護師さん。キャンナスとぐるんとびーがすぐに現地に向かい、緊急・復旧・復興支援活動を担っています。避難生活で寒さとトイレに困っている人たちは、ぐるんとびーが調達したポータブルトイレ「ラップポン」が助かると言っています。

◇

ぐるんとびーでは、そこで働く介護職員が能登に行くので、藤沢での介護を担ってくれる人も募集中。2月、3月と2カ月滞在できる看護師・介護職の人には、有給で派遣する仕組みもさっと作りました。

ぐるんとびーは、普通の避難所では介護しきれない人の避難所として対応できることも特徴です。要介護者が感染を起こしたときの治療や休息の場を素早く作る。直接・間接に動けるように、後方支援してくれる仲間が全国にいて、その人たちもサッと動く。スピード感を持って決め・行動する――それができる団体です。

団地の一室なので、雰囲気は家庭そのもの

◇

若い介護職員が多いのも今時珍しく、またその様子を見学したいという学生が多いのも特徴です。

神奈川県にある田園調布学園大学は、福祉・保育・心理の専門職を養成する大学です。同校から研修に来た、若さ溢れる1年生5人（女性2人、男性3人）に介護への情熱を聞くことができました。

皆さん目標を持ち、児童相談所で働きたい、社会福祉士と介護福祉士の資格を取得したい、いずれは介護施設を運営したい――などの夢を持つ、若さと情熱の塊のような人たちです。

◇

研修に来た学生は、修羅場の現場は見たこともない。でも「ほかの施設とは何かが違う」と感じています。「利用者さんの間に座っていると介護職員が話を振ってくれて、輪の中に入れた」など、利用者や介護職員、学生もみんな一緒という雰囲気でうれしかったと言います。

当日研修に来ていた、田園調布学園大学の学生たち

研修の際、職員の育成についての姿勢が、他の事業所とは異なるところを学生は鋭くとらえていました。「おばあさんが立ち上がったとき、立ち上がりかけたところから介護職員が優しく見守っていた。周囲の楽しい雰囲気を壊さず、そのまま楽しく過ごせるように考えて動いているのがわかった」そうです。

リスクのある人への目配りなど、一瞬でいろんなことを考えて、行動するのが介護の専門家だと思ったなど、鋭い観察力です。また、どれだけ忙しくても忙しさを見せない姿を、身をもって教えてくれたと言いました。

他の学生は「おむつ交換は技術を練習すればできるけれど、ここの介護職員はいろんなことを同時進行して、しかも笑顔でいる。あの人もこの人も視野にいれながら脳みそのキャパを広げて笑顔で接している」と。この学生たちも、修羅場の現場でも切羽詰まった雰囲気を前向きな雰囲気に変えられそうだ。

修羅場の現場では、介護の基礎を学んでいる学生であっても、先輩に指示を仰ぎながらサッと動かなければならない場面もいっぱいでてくる。明日からどうやって生きていくか？という不安を抱えているお年寄りもいる。それにこたえられるほどの力量や情報量はない。でも不安を少なくしてあげることや、公からの情報伝達はできる。

◇

さらに「介護職員が何の話をしたら盛り上がれるかその場で判断しながら話している。全体の空気を柔らかくしたまま動いている」などとも。

◇

代表の菅原さんは「朝来ると、介護職員が3人で泣いているときがあった。悔しいとか、わかってくれないとか言い合っているうちに、悔しいんだったらもっと向き合おうよという話になっていくのを僕は黙って見ていた」。菅原さんは口出ししないで本人たちに任せる人です。

後ろでドンと構えているからこそ、介護職員個々が深く考えて話し合って、行動に移すのだろう。学生が自分の思いを言葉にできるのは最初の一歩、さらに進んでいくうちに君たちの時代の新しい「ぐるんとびー」が生まれると思う。

ぐるんとびーは、かかわる人みんなで脳みそを「ぐるん」と回して、話し合いながら楽しい介護をしているところです。

（取材・文＝栗原道子）